

医王山地域の活性化のために、地域を知り地域の文化資源を発掘する

指導教員 金沢大学 人文学部 教授 西本陽一

参加学生 木戸七彩・山田慎之宥・黒崎大智・土佐路凌輝・中江結香・西垣晴菜・溝越快

1. 活動の成果要約

2021年4月より、対象地域である二俣町住民の方々への聞き取りを中心とする調査実習を進めてきた。9月末には6日間の集中的な現地調査実習を実施した。主要な成果として、成果報告書『金沢市二俣町再訪』の刊行準備を進めている。学生と教員の報告からなる同書は、1. 地区の概要、2. 人口と世帯、3. 地区組織、4. 年間行事、5. 交通、6. 農業、7. 生業の変化、8. 北海道移住、9. いやさか踊り、10. 和紙づくりの内容としている。

2. 活動の目的

医王山の二俣町は、和紙づくりの衰退と交通の発達により、若者人口が流出し、人口減少と高齢化が進んでいる。二俣町会は「二俣紙すきの里まつり」、「二俣紙すきの里古里館」（閉館）、「朝市みちづれ」など振興策を図ってきたが、住民の方々はもう一步の発展を望んでいる。

金沢大学文化人類学研究室は、1992年度に二俣町で調査実習を実施し、地域生活の各面を網羅した総合的な地域調査実習報告書を刊行した。同書は現在、住民の方々にも地域の歴史と暮らしを知る貴重な資料として珍重されている。前回の実習から29年経った本年度、二俣町を対象に同様の調査実習を実施し、地域の活性化のために、地域を知り地域の文化資源を発掘することが本事業の目的である。

3. 活動の内容

本事業は、2021年4月から2022年3月まで一年をかけて、金沢市二俣町を対象におこなう総合地域調査実習である。本研究室は1992年度にも同地域を対象に、同様の調査実習をおこない、実習報告書『金沢市二俣町』（1993年）を刊行している。今回は、29年前の調査実習による報告書と調査実習データおよび郷土資料とセンサスデータをもとに、現地での6日間の集中調査実習を実施し、住民への聞き取りと行事などへの参与観察による一次データから、二俣町の住民生活の全般を記録し、実習報告書『金沢市二俣町再訪』にまとめる。

現地での実習調査にあたっては、医王山公民館と二俣町会から全面的な協力をいただき、聞き取り対象者の紹介、行事への参加許可、聞き取りや集会場所の提供などの支援を得た。聞き取り対象者は、町会名簿に記載された二俣住民全員で、その中からまず公民館長、区長、町会役員などのキーインフォマントへの聞き取りをおこない、さらに各テーマに詳しい方々への聞き取りをおこなった。行事については、町会（忠魂碑慰霊祭）、神社（秋祭り、新嘗祭）、寺院（蓮如忌、永代経、報恩講）などへの参与観察をおこなったほか、町内全体を歩いて、主要な建物や記念碑などの確認をおこなった。

年間を通しての事業の進め方は、前期（4月から7月）、夏休み（8月から9月）、後期（10月から翌年3月）に大まかに分けられる。前期には主に大学にて、29年前の実習報告書（『金沢市二俣町』）とその資料、郷土資料（『医王』『石川県河北郡誌』など）、センサスデータ（国勢調査、農林業センサス）、その他の資料（新聞記事、辞書事典項目など）を、学生が分担して発表し、情報共有した。同時に3度二俣町を訪問し、キーインフォマントの方々から、地区の概要や個別テーマについての聞き取りを実施した（「予備調査」にあたる）。

前期の座学を基礎に、9月終わりに二俣町にて6日間の集中現地調査を実施した（「本調査」と呼ぶ）。この本調査の間には、毎日午前と午後とに、教員と学生からなる2~4人のグループで、各テーマに詳

しい住民の方々へ、2～3時間の聞き取りをおこなうとともに、二俣町内を歩き主要な建物や記念碑などの確認をおこなった。

後期には、調査実習報告書の完成へ向けての作業が主になる。参加学生はそれぞれに個別テーマを決め、それについて10ページ以上の報告書を書いてゆくが、それら各学生の報告書を章としてまとめて、2022年3月までに総合地域調査実習報告書『石川県金沢市二俣町再訪』を刊行する。参加学生は、中間報告会での発表や教員との個別の原稿のやりとりを通して報告書執筆を進めてゆくが、必要に応じて、住民の方々への追加聞き取りや行事の参与観察などの「補充調査」をおこなう。

4. 活動の成果

本事業の一番の成果は、文献調査とフィールドワークをもとに、各参加学生による報告書をまとめた総合地域調査実習報告書『石川県金沢市二俣町再訪』の刊行である。成果の地元還元のために、同報告書は、聞き取りに協力いただいた方々を中心に二俣町の方々へ配付される。

現在作成中の同報告書は、以下の構成で、B5版140ページとなる予定している。

地図
目次
1. 二俣町の概要（西本陽一）
2. 二俣町の世帯と人口（西本陽一）
3. 二俣町の地区組織（西本陽一）
4. 二俣の受け継がれる行事と地域活動（山田慎之宥）
5. 二俣の交通の歴史と現状（土佐路凌輝）
6. 二俣の農業（黒崎大智）
7. 二俣町民の生業の変遷（溝越快）
8. 二俣と厚真町高丘地区—北海道移住の記録と記憶をたどって（木戸七彩）
9. 二俣いやさか踊りの継承（中江結香）
10. 二俣和紙の職人たち—過去と現在（西垣晴菜）
おわりに
参考文献・参考資料・参考ウェブサイト一覧

同報告書の大きな主題は、1992年度から本年度までに起こった二俣の人びとの生活の変化である。かつては交通の便の悪い山間集落であった二俣町は、幹線道路の発達によって、金沢市街と時間的にも観念的にも近接することとなった。この変化は特に生業面で、通勤による勤め仕事が入びとの主要な生業となる一方で、農業など集落内でおこなわれる生業の減少という結果をもたらしている。町内での生活においても、「上手」と「下手」などの地域内区分意識よりも、マチ（金沢市街）との対比による二俣町としての意識が強くなっているように見える。

5. 次年度以降の計画

本年度の調査実習によって明らかになった二俣町の概観をもとに、個別住民のライフストーリー聞き取りを実施し、人びとの二俣での生活経験のより深い理解を試みたい。

6. 活動に対する地域からの評価

主要成果である調査実習報告書の刊行前なので、住民の方々の具体的な評価はまだ分からないが、これまで実習を進めてくるにあたって、多くの方々にあたたかく聞き取りに応じていただき、また報告書を楽しみにしているという声をいただいている。